

目 次

新庄地域保健福祉計画

- | | |
|------------------------|---------|
| 1. ワークシート（各班 A3 版 2 枚） | P. 1～10 |
| 2. 新庄地域の将来像 | P. 11 |

資料編

令和元年12月

テーマ：健康や見守りに関すること（A班ワークシート）

NO.1

課題	視点	課題分析	ニーズ把握	現状における強み
		考えられる要因	求められるニーズ(必要とされるもの)	活用できる資源・要素(既存の事業・拠点・人材等)
<p>①高齢の単身者世帯の見守り(倒れていても誰も気づかない)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、障がい者とコミュニケーションをとる機会が少ない <p>①高齢者世帯の気軽な手助けが難しい(電球取り換えのお手伝い後、帰りに財布がなくなったと言われた)</p> <p>①高齢者世帯への災害等緊急時の情報提供の方法</p> <p>①認知症の方への地域の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の方 人それぞれ対応が難しい。 ・災害でエレベーター停止時の通院等の対応 ・高齢者の見守り(平常時)及び災害時対応 ・災害時の個人情報の取り扱い ・介護保険の区への申請の情報を地域へのフィードバックができない ・区役所の見守り名簿情報不足 <p>②一人暮らしの方と会う機会がない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カラオケも参加者の固定 <p>②町会に入らない世帯が増えてきた</p> <p>②ごみを出す日がバラバラ(若者?)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣関係の希薄化、核家族化の進展 ・町会未加入者をどうしていくか? ・マンションの住民→まず住んでいる人の情報がわからない ・引っ越しで見守りする人が減った(団地建替) <p>②地域活動に参加する若者の不足</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カラオケも参加者の固定 <p>③障がい者への支援、理解、つながりが持ちにくい</p> <p>③障がいがある方の健康診断が少ない</p> <p>(健康)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加しやすい日程がない ・参加したい活動が少ない <p>(障がい児・者や仕事があると平日昼間は参加できない)</p>		<p>①核家族化</p> <p>①②少子高齢化によるつながりの希薄化</p> <p>①買い物や困りごとを手伝うきっかけがわからない</p> <p>①②近所づきあいが苦手</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事などでボランティア活動は後回しになる ・気軽に子どもたちへも声かけられない時代 <p>③各地域で行っている事業・イベントが分からない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問い合わせ等のアクションを起こすまで情報が入ってこない ・公的機関の広報不足 ・行政サービスなどの必要な情報が入ってこない ・情報発信・周知のしかた 	<ul style="list-style-type: none"> ・助け合いには、まず顔見知りになる必要がある→きっかけが必要 ・困っている人達の声がみんなにわかるようなしくみがほしい ・定年を迎えた世代の方々の地域活動への参加 ・障がい者も地域の中でみんなと一緒につながれる状況であってほしい ・障がい者のつどい ・社福会館の土日の活用(卓球や体操など) ・タイムリーに必要な情報が入ってきてほしい ・社会的現象として今後一層、ニーズが強くなる 	<p>①高齢単身者世帯のお手伝いを実行している地域の皆さん</p> <ul style="list-style-type: none"> 主婦からの情報をもらう ・ミニネットワーク委員会(町会別) ・敬老のつどいの際に各町会で70歳以上を把握している ・元気な高齢者が多い ・子ども見守り隊などの地道なつながりづくり ・広報紙が全戸に配布されている(新聞未購読世帯は、区役所広報担当への申請が必要)

具体的対応策				地域の重点目標
実施内容・方法	中心的担い手	主な必要経費・財源	その他、工夫すべきところなど留意点	計画に掲げる項目
<ul style="list-style-type: none"> ・小集団(となり近所)で見守る ・新庄地域特有のミニネットワーク組織の強化を図る・人と人とをつなげるシステム構築 ・表札の義務化(法律で) ・お風呂のない高齢者世帯→お風呂屋さん無くなった→地域で取り組み(福祉施設の活用・ビハラの協力)(助け合える近所付き合い) ・2人ペアで訪問する ・包括センターに訪問時の注意点などを指導してもらう ・事業者と連携した見守り(郵便配達、ガス点検、新聞配達、電気点検、宅急便など)→新聞配達、ガス点検なども委託が多いため、スタッフが信頼できるか不審。人選が大切 ・高齢者の方による登下校見守り→お互い顔見知りになり、見守りにもつながる ・月一回でも高齢者と子供のふれあいの機会(けん玉などの昔遊び) ・高齢者同士の見守りできる環境 ・住民が集まる場をつくる→百歳体操で知り合いを増やす ・町会のふれあいサロン、ふれあい喫茶でおしゃべり ・ボランティアの新規開拓・退職後の方々の発掘 ・町会行事(まつり、もちつき、ボーリング等)へのお誘い ・青年の集いの拡充・子供も参加できるイベントで若い世代の参加促進 ・高齢者のサークル活動に地域の30~40代の講師を招く(卓球、ヨガなど自分の特技を活かしてもらう) ・楽しくボランティアに参加してもらう(横のつながりづくり) ・認知症や障がいに関する勉強会 ・障がい者の健康診断を社福会館で実施する ・地域がこまめに健康情報を広報 ・各家庭に血圧計・体重計配付 ・住民が集まる場で行政サービス周知 ・掲示板に情報貼る(伝言以外も) ・事業、イベントを集めて周知する ・情報発信する。ネットを使える人が必要 ・現状の見直し(何のためにやっているか)→他の町会行事を見学する ・定期的なアンケートによるニーズの確認・把握 ・リノベーションカ 	<ul style="list-style-type: none"> ・近所での声掛け ・隣近所、町会(の班) ・民生委員、児童委員との連携 ・マンション管理会社やオーナーに町会加入の声掛けの協力依頼に行く ・介護事業所との連携 ・PTAとの連携 ・女性部との連携 ・(ボランティアで)得意な分野で積極的に人材バンク登録をする ・区社協の活用 ・ボランティアセンター ・地域福祉活動から「障がい者のつどい」に関する新たな部の新設 ・生活支援センターとの連携 ・公共事業の活用 ・夏まつりの交通整備等を地域の大学生にやってもらえれば⇒地域活動協議会 ⇒各町会 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報紙の広告料 ・協賛企業を募る ・区の助成金 ・模擬店での物品販売 ・コミュニティ回収 	<ul style="list-style-type: none"> ・町会単位での情報収集 ・地域内でボランティアとお手伝いしてほしい人をつなげる工夫(受付窓口を決める) ・災害時対応については、要援護者支援登録者とミニネットの組織をマッチングさせる ・子ども110番の高齢者向け組織 ・元気な高齢者が生活弱者を支える ・いつでも顔合わせできる組織 ・1人が2人ずつ新人発掘 ・誰でも参加可能な行事 ・人が集まる場(食サやふれあい喫茶)での宣伝が一番伝わる ・子ども向けイベントであれば、親(若者世代)も参加するが、他のイベントや地域活動への参加にどう繋げるか ・親同士の口コミで誘ってもらう ・岸和田のたんじり祭りのような青年団の目玉になる取組(祭り(たんじり)のために地域に若者が戻ってくる ・外国の方や女性にもまつりの神輿担ぎに参加してもらう ・大経大、北陽高校とのコラボ ・新庄地域のつながりをPRする ・青年が集える場、行事を考える ・小・中学校の人権勉強会も的外れな講師が多いので、学校への情報提供 ・障がい児・者のことはA~E班すべてのテーマにつながる ・広報紙、ポスティング、学校や地域行事での配布など、情報発信の手法検討 ・見やすいポスター ・実施しているイベントで周知 ・区役所での「ケアニン」上映会もガラガラだった→参加しやすい日時や他のイベントとくっつける工夫が必要 ・学校よりも社会福祉会館の方が入っていきやすいので、開催場所の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・町会で2人ペア訪問に取組む(短) ・高齢単身者→週に1~2回訪問し、声掛け、話し相手になる(短) ・包括支援センターと町会長との連携を密にする(短) ・郵便局、新聞配給所、宅急便、関電、大阪ガス、と町会(近隣者)班長のつながりの確立(中) ・日常的に見守りができる体制づくり(短) ・ミニネットワーク再構築(中) ・町会行事に誘う→ボランティアの増加(短) ・健康、見守り、ボランティアに関する情報収集・情報発信(責任をもってボランティアをしてくれる人の情報収集、健康イベント等の情報発信の手法検討(中) ・障がい者と相互理解の場づくり(短) ・新庄会館、社福会館で障がい者のつどいなどを開催(短) ・百歳体操等の情報発信(短) ・社福会館に血圧計・体重計などの設置(短) ・イベントの景品として血圧計等を配布or各町会で所有(中) ・ウォーキングランニングのコースづくり(中) ・楽しくウォーキングできるマップ作成(何歩歩いたかでどこまでいけたか見える化)(長) ・イベントの開催曜日の変更(土曜日も実施)(短) ・住みやすく、安全・安心な気楽に暮らせる新庄(長) ・継続可能な組織の構築(長)

視点 課題	課題分析	ニーズ把握	現状における強み
	考えられる要因	求められるニーズ(必要とされるもの)	活用できる資源・要素(既存の事業・拠点・人材等)
お年寄りの相談いろいろ ・高齢化に伴い、ひとり暮らしの増加 ・かかりつけ医や病院に救急搬送を拒否された ・子どもの遊ぶ声がうるさいと言われる ・どう呼びかけたら行事に参加していただけるのか？ ・回覧板・掲示板とも、ほとんど見られていない ・オトナの事情(町会加入か否か)で子どもを差別するわけにはいかない。(参加費どうするか) ・若い方たちとのつきあいをするようなきっかけがあまりないと感じる ・ワンルームマンション住まいの方とお付き合いがとりにくい ・「新庄やから」という(物語性のある)ものがない ・コミュニティの中心になる人がいない ・10年後、今の町会長で町会自体存続できるのか不安。50代60代不在で、中心になりきれしていないPTA世代の不安 ・今回水害でハザードマップ最新版(どの辺りまで浸水するか)等、地域で共通した情報を持つことが必要 ・情報の有効活用 ・ふれあいサロンの有効活用	相談体制・相談場所 ・ひとり暮らし高齢者の引きこもりをどうしていくか？方法がない <u>大きな遊び場がない</u> 楽しい企画→口コミで呼び込む <u>他の地域を参考にする必要あり</u> ・生活時間が違いキッカケがない ・誰に声をかければよいかわからない ・若い保護者は町会主催・参加費のしくみ自体がわかっていない人が多い。 ・子どもたちや地域のためのイベントのほずが、オトナの都合でぶれていないか？ ・認知症を探す取組み(観察・発見) ・コミュニティに安心してかかれる医療機関を ・新庄地域を特長あるまちに！！ ・地域開催の誰でも参加可能な行事(夏祭りは区広報に載せてもらえる) ・情報共有の手段が現代に沿っていない ・「新庄やから」と1つになれる目的目標のあるものになるための段階が必要では？ ・中高生は、親からも地域からも離れていってしまう 役員の長期化	<u>地域包括支援センターの活用</u> ・認知症を探す取組み(観察・発見) ・コミュニティに安心してかかれる医療機関を ・新庄地域を特長あるまちに！！ ・地域開催の誰でも参加可能な行事(夏祭りは区広報に載せてもらえる) ・子どもたちや地域のためのイベントが、オトナの都合でぶれないように ・保護者が自分の子の育ちを知る機会が必要⇒イベントにも取り入れてほしい ・大きな遊び場が欲しい ・発達障がいの子もたちとの接し方、育ちの見守り方(地域で見守る地域の子) ・子どもが活躍できる何か ・1～3年生向け行事で、保護者の子育て力を育む ・神社の場の活用:もう少しできたら ・70代と若い世代をつなぐ役割がほしい ・地域に出かけるきっかけづくり ・タイミングを逃さずイベントに声かけ、負担のかからないよう配慮し、その人の得意なことから町会活動に参加してもらう ・役員体制を再考 ・担い手育成で顧問として関わってもらう ・役員の育成 ・男性を引っ張り出すには、別の作戦が必要 ・定年後？(直後位の年齢の方)の地域活動への参加(役員候補としても) ・青年部ができれば良い(青年部だけではなく、先輩たちからも意見をもらえるような体制作り) ・初めての人が入りやすい工夫 ・特定の人しか来ない固定した仲良しクラブではない工夫 ・ツールの検討(若者)HP等WEB ・地域に根付く働き方・仕事 いろんな種をまく(ターゲットに合わせて) ・地域に入りやすい雰囲気作り ・新庄社会福祉会館 ・孤立死を防ぐきっかけとなるもの ・未来への投資として ・カラオケ愛好者等に固定化の傾向、昔にあった向う三軒両隣のな場所として利用してもらえないか	地域包括支援センター ・病気の話もコミュニケーションのツールや情報交換になる ・ミニネットワーク委員会が各町会にある(活かされている所と活かされていないところがある) ・早朝太極拳、ラジオ体操等を通じてのコミュニティ(お互いを気遣う＝見守りあう関係性) ・自転車に町会シールを貼っているの、変なところに停めていたら注意している ・初めからいろいろ言わず(例)百歳体操:参加者が自分たちでやれるようになる声かけと見守り方をしている ・マージャン6台満員(会館) ・こどもカラオケ実施(会館) ・話しかけるタイミングをつかむのが上手い人が各町会ひとり居る。 ・活動してくれる人が多い ・情報発信が上手い ・地域貢献で、駅前企業が協力してもらえないか ・PTAなど、役をやったきっかけで出会えた ・古い地域が多く、高齢者皆を良く知っている ・定年を迎える方の情報をもらう⇒担い手に ・各調査年齢を70歳以上に年齢を引き上げている場合が増えたが、次期役員を探すツールとして65歳以上の調査をし、手前世代の人材をキャッチする ・地域活動協議会の活動が活発 ・新庄っ子野外活動:4・5・6年生の異年齢交流を「子ども会・青指・青福」3団体が中心に⇒各団体間交流・情報交換に繋がる ・2年に一度の地域防災訓練に、中学生の参加を伝えてきた。(学校協議会にて) ・事業には必ず明確な目的がある コスモ3棟集会所で「百歳体操」⇒月1回のお茶会から話すきっかけが生まれた→挨拶のきっかけにもなった→企画など、みんなで寄れば意見を出し合うように→老人ホーム見学も実現 ・新庄地域防災マップ全戸配付予定(作成中) ・新庄地域が誇る「新庄ふれあいサロン」の活性化

具体的対応策				地域の重点目標
実施内容・方法	中心的担い手	主な必要経費・財源	その他、工夫すべきところなど留意点	計画に掲げる項目
<p>会館の活用</p> <p>スポーツ交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校庭開放を利用してスポーツの大会などをしてスポーツを通じてコミュニティを立ち上げる(現状、卓球のみギリギリ開催できている) ・掲示板の電子化による活用…1つ情報発信したら全ての掲示板に表示されるように⇒各個人のスマホでも見られるように ・インターネットラジオ(現在の地活協HPを活かす)・FM局の開設 ・HPの担い手(仲間)を増やす ・フェイスブック入門講座の開催 ・おしゃべりおじさん・おばさんを作る <p>高齢者と子どもの交流する場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お年寄りの昔遊びを子どもに教える機会をもっと作る ・子どもの見守りがお年寄りにとってとっても楽しい！と感じるような楽しめる活動を、もっと作る ・60代は、まだ若い「60代の会」結成 ・小さい子どもを育てている親が親子で参加して、子どもは地域のお年寄りが見守ったり、親たちとお年寄り(子育ての先輩)が交流する中で悩みが軽くなったり出来るような試み ・低学年向けキャンプ ・古い人ばかりで集まらず新しい人が入りやすいムードをまず作る ・食べる ・カラオケ ・「足湯」(場づくりのため) ・やっけても、やり甲斐のあるように ・ボランティアの喜びを知るキッカケづくり ・情報共有の手段を現代に沿ったIT活用 ・防災MAPIは、見えるところに貼っておけ！ 	<p>地域包括支援センター</p> <p>ミニネットワークのさらなる活用“見守り”</p> <p>若い世代・現役世代</p> <p>定年を迎える人</p> <p>特技を持っている人</p> <p>60代</p> <p>PTA・地活協</p> <p>お年寄り</p>	<p>校庭開放</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新庄の団地があったところ(上西住宅跡)を緑の場、地域が活用できるような場所に <p>新庄会館</p> <p>新庄社会福祉会館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時必要物品の購入を目標としたバザー →結果・収支報告を行い、住民で共有を目標に 	<p>保護者同士～子ども同士⇒繋がりが繋がりを生む仕掛け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広場がほしい <p><u>他の地域(大隅西・井高野体育部)を参考にして:出来ているところ/出来ていないところをお互いに情報交換する</u></p> <p>40代50代と出会うキッカケ(例)和太鼓など伝承していけるような「新庄だから」に繋がられるようなもの</p>	<p>・包括支援センターとの連携を密に(短)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中、高校生によるイベント(防災訓練参加から)(短) ・サロンの有効活用(短) ・いきいきに参加していない子も参加できる校庭キャンプ(PTA主催)主催(短) ・高齢者食事サービスの席替え(グランドゴルフのように)(短) ・ミニネットワークの更なる充実のための具体的検討会(中) ・各町会に集会場確保(空き家利用)(中) ・スポーツを通じての青年部立ち上げ(長) ・定年後の人材、特技がある人材へのボランティアの喜びPR(長) ・日曜日の町の一斉清掃の義務化(病気等事情のある人を除く)→つながりづくり(1回全世帯に回覧を発する)(中) ・「現代における近所づきあい」とは何かをみんなで考える。(短) ・電子掲示板を設置して情報発信(ICT活用)(長)

テーマ：子育てや教育に関すること（C班ワークシート）

NO. 1

課題	視点	課題分析	ニーズ把握	現状における強み
		考えられる要因	求められるニーズ(必要とされるもの)	活用できる資源・要素(既存の事業・拠点・人材等)
<ul style="list-style-type: none"> ・来る人が子育てサロンでは限られる。来られない人をどうするかが課題。 ・子育てサロンに来られない人の抱える悩みをどう拾うか。 ・家の前でしか遊べないが、危ないし、近所の人に怒られる。 ・児童の発散ができない→学習習慣の定着重視のため。 ・子育てしやすい地域づくりのニーズを把握する。 ・情報発信(情報が多すぎて必要な人に届かない) ・子どもを持っている親が考えるべき(昭和の考え方)。保護者の自覚の欠如。 ・学力を何とかしないといけない。 ・学校のバックアップが必要。 ・地域や家庭の責任。 ・子供会の規模縮小→各町会から成り手がないう。指導する人が不足。 ・子供会に参加しない家庭が多い。何でも参加してほしい。 ・ダメなことはダメだが、子どもにとってすべてダメではない。 ・新庄小学校「いきいき」の幅広い利用促進 		<ul style="list-style-type: none"> ・子育てサロンを長年やっているものの、浸透しきれていないのでは？ ・公園がない、ボールで遊べる場所がない。 ・来年度から英語の授業が本格的に導入されるため。 ・授業時間の中の休憩時間にメリハリがつけられた(学習習慣定着のため、5～20分間の幅で)。 ・学校選択制の導入。 ・児童の休憩時間に自由がなくなっている(毎日10分、英語のため)。 ・担い手不足(朝ごはんの子ども食堂などボランティアが見つからない)。 ・若い人にはチラシより、SNSの方が広がる。 ・早くから保育所に預ける、公園が少ないので、ママ友が出来にくい。 ・貧困世帯が多い。 ・新庄地域は低所得者が住みやすい。 ・友達と一緒にないと、子どもに来いでは来ない。 ・子供会は各町会で取り組みが違う。 ・地域の伝統が伝承されていない。 ・高学年児童の利用促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃん訪問している(路交館)に協力を呼び掛け、子育てサロンのチラシを訪問時に持って行ければ、子育てサロンの参加者が増えるのでは？ ・親同士の横のつながりを広げる。 ・地域の行事で学年間の交流ができれば(ソフトボールなどはやっている)。 ・ボール遊びが出来る公園など ・学校以外での児童の縦割り(6年生が下の学年の面倒を見るなど)。 ・児童が楽しく学校に通える環境、体制。 ・ママ友、お母さん同士のつながり ・マンションへの周知 ・他の子と比べて発育の速度などについて子育てプラザなどで保健師さんに相談している→先輩として気軽に相談・アドバイスできる方 ・高学年児童が参加したくなる活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃん訪問、2歳児健診などの活用。 ・新庄フェスティバルで子育てサロンのブースを設ける。 ・保育士や保健師による専門的なプログラム。 ・子ども同士も友達になれるという強み ・関西スーパーのレジ、入口のところにポスターを貼る(西松屋も)。 ・子どもが高校生くらいになって(小さい時のことを)覚えてくれてい→縦のつながりもできてきている。 ・安心して子どもたちが遊べる生活道路。 ・保護者も登校時に付き添っていている。 ・児童の登下校の見守り実施。 ・学校と地域の連携。 ・新庄小は毎朝、集団登校なので安心。 ・ソフトボール、フラッグフットボールなどの実施(親子が一緒に楽しむ)。 ・地域の運動会に幼児が参加できる催し(おかし競争)がある。 ・子供会がある。 ・読み聞かせボランティア(地域の人)。 ・中学生相手の無料塾(毎週金)⇒対象限定 ・新庄ベースボールデイ(月1回)。 ・「パビリア」による地域貢献。 ・「お祭り」「もちつき」「ボウリング」「クリスマス会」など町会で実施。 ・新庄地活協が受託事業者

テーマ：子育てや教育に関すること（C班ワークシート）

NO. 2

具体的対応策				地域の重点目標
実施内容・方法	中心的担い手	主な必要経費・財源	その他、工夫すべきところなど留意点	計画に掲げる項目
<ul style="list-style-type: none"> ・新庄フェスティバルや運動会(各年実施)で幼児が集まるブース設置 ・みのりちゃんフェスタ(各年実施)での区内他地域との情報交換 ・子育て世代が来る店舗(西松屋など)に幼児コーナーを設けてもらう ・子育てに関する共通の悩み相談 ・上新庄ネットの活用 ・各町会ポスターの活用 ・子育てQ&A情報の発信 ・気軽に話せる相手 ・安まちメールの活用 ・子育て世代向けメルマガ発信 ・LINE、SNSの活用 ・地域、区広報紙活用(チラシにQRコードを載せて詳細はWEBで) ・子ども食堂(曜日、時間帯の工夫) ・学年毎の寺子屋 ・子ども向け手芸&編み物教室など ・子ども向け生涯学習(習い事) ・単純な遊び ・校庭の活用 ・いきいきのPR ・昔遊び→地域で年1~2回おこなっているが、定期的(月1~2回)にすると教える楽しみが生まれ、色々な昔遊びが伝えることができ、幅も広がる。高齢者も参加しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代のボランティア(SNSでの情報発信など) ・元PTA役員 ・元子ども会役員 ・周辺の保育園、幼稚園など ・日曜大工が得意な人 ・孫のいる人 ・元教員 ・地元の福祉施設の職員 ・地元の大学生&高校生 ・学生ボランティア(高校など) ・ボーイスカウト(OB含む) ・いきいき指導員 ・地域ボランティア ・地活協 	<ul style="list-style-type: none"> ・地活協補助金 ・商店の協賛金(フェスティバルなど) ・事業者からの商品提供(コリスさんからラジオ体操の景品のお菓子提供。パピリアや日本製紙からも提供あり) ・子ども手当を一部地域に還元 ・バザーやお祭りに企業に出店してもらい、売上金を寄付してもらう ・マンション管理会社からの寄付(一部の町会) 	<ul style="list-style-type: none"> ・有償ボランティアの仕組み ・子どもが来やすい場所の掲示 ・ふれあい喫茶で子供向けメニューの提供 ・周知にLINE活用(前日に確認メール) ・幼児参加の呼びかけ ・まち美化活動への子どもの参加呼びかけ ・企業の地域貢献力の拡大 ・情報収集および集約のための役割分担 ・「いきいき」の時間を上手に使う ・高学年の「いきいき」への積極的な参加を呼び掛ける ・小学校の校庭を上手く使う ・放課後の学習・遊びを両立させた活動 ・情報発信元の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・SNS等を活用した子ども向け、子育て世代向け広報の充実→情報基地局の整備(中) ・子ども食堂立ち上げ→ふれあい喫茶に子ども食堂を移動 ・ふれあい喫茶の実施回数を月1回→月2回にして、1回は子ども向けに→大人対象と子ども対象のふれあい喫茶を交互にする。お試しでどれくらいの人(子ども)が来るか案内を出す(短) ・校庭の開放(週に1回でも)(中) ・塾での夕食提供(中) ・市営住宅跡に子どもが自由に遊べる多目的広場(長) ・高齢者による子育て講座と昔遊び(短) ・登下校の見守り隊拡大(短) ・各町会子ども対抗ゲーム大会(短) ・町会と子ども会の合同イベント(短) ・新庄っ子野外活動の充実(キャンプ等)(短) ・子ども祭りの設立(中) ・各町会に子ども遊び広場の設置(中) ・地域における子ども達の異年代交流の促進(中)

テーマ：住環境などに関すること（D班ワークシート）

NO. 1

視点 課題	課題分析	ニーズ把握	現状における強み
	考えられる要因	求められるニーズ(必要とされるもの)	活用できる資源・要素(既存の事業・拠点・人材等)
<p>まちの美化 たばこ・ごみのポイ捨て</p> <p>犬の糞処理</p> <p>カラス・猫の被害</p> <p>ゴミの収集</p> <p>自転車 上新庄駅周辺の放置自転車</p> <p>みどり まちの中に緑が少ない</p> <p>空き家 空き家に関する心配</p> <p>住環境 ①生活環境 ②住宅環境 ③快適環境</p> <p>生活環境 ① ② ③自転車マナー 道路の狭小 をどう防ぐか？</p> <p>木造住宅の密集</p> <p>庭の木がのびている</p> <p>自宅付近は気づいた時清掃ポイ捨てに関しては同じような状況で繰り返されている様子</p> <p>・毎回、公園清掃・道路清掃をする人、生涯しない人に分かれる</p> <p>・上新庄駅前の歩道での放置自転車問題</p>	<p>駅のゴミ箱がなくなっても町のゴミ増えなかった</p> <p>ゴミ箱の周辺がものすごく汚れる</p> <p>電車に乗る人おりの人の喫煙所</p> <p>自転車の置き捨て</p> <p>駅の利用者、周辺店舗の客</p> <p>ゴミの収集時間が遅くなった</p> <p>カラス・猫の被害</p> <p>ゴミ箱を設置することで家庭ごみを出す人がいる</p> <p>ひとりひとりのマナーの問題</p> <p>団地の掃除をする人がいない</p> <p>空き家の持ち主と活用したい人がつながる場がない</p> <p>持ち主に空き家を提供するメリットが無い</p> <p>駅前テナントビル、店舗への来店者、駅利用者等の自転車放置</p>	<p>住宅開発時緑を増やす対策を</p> <p>まちに花壇を設置する</p> <p>町にゴミ箱を設置してはどうか</p> <p>灰皿を設置 (煙草を吸う人のたまり場になる)</p> <p>ボランティアがすぐに片付ける(清掃活動をするボランティアの姿を見せることで住民の意識がかわった)</p> <p>プランターなど置いて駐輪できなくする</p> <p>ゴミ収集職員の意識改革(カラスなどが荒らしたゴミの片づけもしてほしい)</p> <p>土曜日・日曜日の不法駐輪の増加に対する対応策が必要</p> <p>放置自転車があると歩道が狭くなり障がい者にとって危険(一般歩行も同様)</p>	<p>『まち美化ボランティア』</p> <p>我々の町会でも各自毎朝道路や自宅周辺の清掃をしている方もいる</p> <p>ボランティア活動が活発</p> <p>上新庄駅前の駐輪場は1時間無料</p> <p>ローソン・ファミリーマートでは町の掃除に従業員が動いている例がある</p> <p>阪急の駐輪機(1時間無料)</p> <p>サイクルサポーター</p>

テーマ：住環境などに関すること（D班ワークシート）

NO. 2

具体的対応策				地域の重点目標
実施内容・方法	中心的担い手	主な必要経費・財源	その他、工夫すべきところなど留意点	計画に掲げる項目
<p>人の心を変えなければ達成不可</p> <p>ボランティア活動を見てもらい、マナーアップにつなげるため、ボランティア活動を知ってもらう</p> <p>ボランティアしている人へジャンパーなどを配付</p> <p>子どもと一緒に美化活動をすることで住民に美化の意識をもってもらう</p> <p>夏休みラジオ体操の時教育の一つとしてゴミ拾い実践</p> <p>活動をネット等を通して広くに発信</p> <p>空き缶回収してお金に</p> <p>子どもたちにポスター作製協力してもらい、街の美化について啓発</p> <p>ポイ捨て罰則</p> <p>防犯カメラの設置</p> <p>タバコのポイ捨て反則金たばこの吸える場所の確保</p> <p>町全体で考え直す(掃除の仕方・住民の意識)町会がチェックマンとなる</p> <p>学校教育(ゴミ出しマナーの意識改革)</p> <p>ごみを捨てられないようにする</p> <p>店舗に対して美化活動への協力を地域(組織)として呼びかける</p> <p>お店が無料駐輪券を発行して自転車の駐輪を町ぐるみで取り組む</p> <p>あき家を利用したい人とあき家の借り主とのつながりをつくる</p> <p>・サイクルサポーターによる指導</p> <p>・阪急の駐輪機への誘導</p>	<p>現在活動しているボランティア</p> <p>新庄小学校、学校に通う子ども</p> <p>学校と地域との連携</p> <p>地元の企業、店舗</p> <p>阪急電鉄</p> <p>町会</p>	<p>掃除の財源</p> <p>広報活動(チラシ、ポスター、ネットでの情報発信)にかかる費用</p> <p>条例で取り締まれるか</p> <p>ゴミの問題⇒お金で解決⇒税金でかえってくる⇒罰金制度(市役所・公的機関)</p>	<p>行政のサポートが必要</p> <p>有償力活用税金を減らす</p> <p>有償ボランティア見直しすべきではないか</p> <p>住民の意識</p> <p>所有者が有効活用して欲しいと伝えるよう意識を変える</p> <p>自宅まわりを掃除週1回</p> <p>ゴミを捨てにくい街に</p> <p>一人一人の意識改革</p> <p>阪急の駐輪場をもっと使いやすくしてほしい</p> <p>コンビニの店ゴミ箱を店舗の中に置いている</p> <p>土、日の放置自転車撤去</p> <p>店舗等関係者の協力を得られないか</p>	<p>住民一人ひとりの意識改革<短></p> <p>放置自転車をなくす<中></p> <p>学校と連携し、小学生に美化、自転車放置に関する啓発ポスターを作成<中></p> <p>まち美化ボランティアのユニフォームを作成し、活動をアピール<短></p> <p>美化に関する活動の一覧をつくり、活動を周知する<短></p> <p>ネットなど様々な方法を用いて美化に関する啓発をおこなう<短></p> <p>地域として店舗に働きかけ、駐輪場の利用を促進、美化活動の協力を依頼<中></p> <p>阪急電鉄へ駐輪についての申し入れをする<中></p> <p>あき家を利用したい人とあき家の借り主とのつながりをつくる<長></p> <p>コミュニティ回収の実施<短></p> <p>駅前駐輪場対策委員会の強化—小委員会を設立し、具体的対応策の検討と実施<短></p> <p>花植えの拡大事業<短></p> <p>防犯カメラの増設と位置の周知<中></p> <p>落書きの除去(その都度)<短></p> <p>家庭ごみ収集方法の改善<中></p> <p>タバコ禁煙区域規制条例の設立(駅前交差点を中心に)<長></p> <p>駅前に交番の設置<長></p>

テーマ：安全・安心に関すること（E班ワークシート）

NO. 1

課題	視点	課題分析	ニーズ把握	現状における強み
		考えられる要因	求められるニーズ(必要とされるもの)	活用できる資源・要素(既存の事業・拠点・人材等)
<p>【安否確認】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安否確認がしづらい ・安否確認はどこまでするのか ・災害時の連絡体制 <p>【避難関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新庄小学校が避難場所で良いのか ・避難所内のイメージがわからない(避難者1人あたりはどれぐらいスペースがある?) ・大型マンションの住人は新庄小に避難できない ・避難訓練が少ない ・広い公園がない ・川の水位がわかるような仕組みづくり <p>【登下校の見守り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校下校時の見守り活動のボランティア不足 <p>【防犯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防犯カメラがどこにあるか分からない ・駅前には交番がない ・ケンカが多くて困る 		<p>【安否確認】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横のつながりがない ・戸建てはむこう3軒両隣があるが集合住宅はない ・町会に加入していない住民のコミュニケーション不足 ・マンションは隣を気にしない ・安否確認に無関心 <p>【避難関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マンションの住人1000人も新庄小学校に避難できない ・周辺の建物が入り組んでいるのでわかりづらい ・災害に無関心 ・個人判断に頼りすぎ ・区からの情報がわからない ・準備等に要することが多い <p>【登下校の見守り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下校の見守りは時間が長い ・人が集まらない ・時間を拘束されるのがイヤ <p>【防犯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・警官の人手不足、予算不足 ・飲食店が多い 	<p>【安否確認】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つきあい、つながり ・連絡体制 <p>【避難関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区からの情報、防災放送 ・避難指示 ・避難所のイメージの提示があればよい ・広い公園がない ・短期的・小さな目標を掲げ、とにかく訓練回数を増やす <p>【登下校の見守り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人手、担い手がほしい(退職者・自営業など) ・時間の都合がつけば、(短時間など)参加しやすい <p>【防犯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防犯カメラの地図があればよい ・本人のモラル(本人の責任) 	<p>【安否確認】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一部の町会では、安否確認する人(誰が誰を確認する)をあらかじめ決めている ・要援護者の登録 ・知り合いに声かけ ・シールやマグネットに「私は大丈夫です」と書かれたものをあらかじめ準備し、玄関に貼る。 <p>【避難関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所開設訓練 ・避難所のスペースは、1人1畳くらい。 ・防災マップ(作成中・全世帯に配る) ・公園に避難 <p>【防犯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歳末夜警 ・夏休みの夜警 ・大型マンションの敷地内にはたくさんの防犯カメラを設置済

具体的対応策				地域の重点目標
実施内容・方法	中心的担い手	主な必要経費・財源	その他、工夫すべきところなど留意点	計画に掲げる項目
<p>【安否確認】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大丈夫です。」のシールやマグネットを作成・配布し、災害時に活用する。 ・「安否確認して。」という放送を流してほしい。 ・町会単位で電話の連絡網を作成する <p>【避難関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報のカード化 ↓ 写真・名前・血液型・緊急連絡先などを記したカードを首からさげる名札にする。 ・道路を広くする ・北陽高校を新庄小にかわる指定避難所に <p>【防犯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まち歩きで防犯カメラの場所の確認 ・区役所、警察、地活協 それぞれが設置したカメラの位置を周知してほしい ・交番の移設 ・カメラの増設 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民全員 ・町会長や役員 ・町会の班長 ・防災リーダー ・登下校の見守りにPTAや児童の保護者（順番制） 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政や町会 ・地活協 ・災害時に必要な物品を購入できるようにバザーの開催 	<p>【安否確認】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安否確認は自ら発信 ・地域で統一したシールや旗を作る。 ・町会で安否確認の体制を作る。（要援護者向け） ・班長（定期的に回す）が安否確認 ・周知用のポスターの作成 <p>【避難関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所情報の周知 ・避難所の開設の情報が町会長に伝わらない。 ・ハンドマイクでの呼びかけ ・青パトでの呼びかけ ・防災マップを全員に配布 ・防災マップに診療所やコンビニ、水道の位置がある。 【登下校の見守り】 ・裁判員制度の応用など ・保険の問題 ・有償ボランティア ・報償制、お礼 <p>【防犯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防犯カメラの位置を把握する ・個人宅のカメラの情報も ・防犯カメラは抑止に ・各家庭で防犯カメラをつけてもらう。 ・マンションのオートロックの扱い方などの特徴を把握しておく 	<p>【安否確認】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常から両隣とは、仲良くなっておく。（向う3軒両隣は顔見知り）（短） ・「大丈夫です！」と一目でわかるようなシール、マグネット、旗の作成→活用しやすい方法で（短） ・ヘルプカード（名前や血液型、特徴を記したもの）を作成し、常時携帯（中） <p>【避難所開設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションボードを活用（障がい者や子どものために）（短） ・防災訓練の充実と強化と継続（短） ・中高生の参加→東淀中学校との連携（短） ・地震に対する自助・共助の大切さのPR及び指導（耐震補助、家具転倒防止）（短） ・家具転倒防止などの講習会（短） ・防災グッズの啓発と具体的な備えの周知（短） ・自分の身は自分で守る（短） ・災害時3日間の食糧の備え→自分でする（短） ・避難所に段ボールベッドの配置（中） ・北陽高校避難場所の再検討（中） ・小さい単位（町会）で訓練（中） ・高層マンションや施設の協力（中） ・救急カプセルを広げていく（中） ・避難所開設訓練に全員参加（訓練の参加により、避難所のイメージを事前に把握しておく。）（長） ・備蓄倉庫を増やす（長） ・避難場所を多く作り周知（長） ・防災リーダーの増員（2人→3人）と若返り（長） <p>【登下校の見守り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人手不足は、有償ボランティアで（長） ・ボランティアの交代制（長） <p>【防犯カメラ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カメラの位置を把握し、地図にする。（防災マップの活用）（短） ・防犯灯の位置の把握（短） ・放置自転車の啓発（新庄地域より周辺地域の人へ啓発することが必要）（中） ・放置自転車の整理（長）

新庄地域の将来像

重点項目	時期	短期目標	中期目標	長期目標	横断的な取り組み	地域の目標
テーマ	具体内容	すぐに取り組みを進めていくもの	段階的に準備を進めながら取り組むもの	将来的に取り組むもの		
健康や見守りに関すること	・高齢者や障がい者の見守り活動の強化 ・障がい者への理解を進める ・健康づくりの情報の発信	○ミニネットワークを強化し、一人暮らし高齢者・認知症高齢者など日常的に見守りができる体制づくり ○障がい者を理解する場づくり、イベントの開催 ○新庄社福会館(ふれあいハウスSHINJYO)に血圧計などを設置する ○中部地域包括支援センター(びはーら)との連携を密にする	○郵便局、新聞販売店、宅配業者、関西電力、大阪ガスなどと地域が連携して、高齢者や障がい者の見守りを強化する ○健康づくりのための手法を検討し、実践につなげる。	○ミニデイサービスなどのつどいの場づくり(食事の提供や体操などを行う)	地域の住民・関係団体が協力して取り組む	みんなが住みやすく 健康で気楽に暮らせる 安全・安心な 新庄
コミュニティやつながりに関すること	・つながりの場の提供 ・人材の発掘、育成 ・情報発信	○新庄社福会館(ふれあいハウスSHINJYO)2階のサロンの有効活用(誰でも参加できることの周知等) ○高齢者食事サービスでの交流の促進(席替えなど) ○「現代における近所づきあい」とは何かをみんなで考える ○ミニネットワークの更なる充実のための具体的検討を行う	○各町会に集会場確保(空き家利用) ○スポーツイベント等を通じて、青年部を立ち上げる ○定年後や特技がある人材へのボランティアの喜びをPRし、担い手を増やす	○電子掲示板を設置して情報発信(ICT活用) ○コミュニティFM(ラジオ)局の開設		
子育てや教育に関すること	・子ども向け、子育て世帯向けイベントの充実 ・遊び場の確保	○高齢者による子育て講座と高齢者がこどもに昔遊びを教えるイベントの開催 ○子ども向け、子育て世帯向けイベントの充実(町会イベントとの合同開催など) ○地域における子ども達の異年代交流の促進(新庄っ子野外活動内容の充実や誰でも参加できる校庭キャンプなど) ○校庭開放の拡充(週に1回程度)	○ふれあい喫茶に子ども向けメニューの提供 ○SNS等を活用した子ども向け、子育て世帯向けお役立ち情報の発信、広報の充実 ○祭り(盆踊りなど子どもが参加しやすい)などのイベントの開催 ○親同士の交流の拡充	○子どもが自由に遊べる広場の設置(市営住宅跡地の活用等)		
住環境などに関すること	・まちの美化活動 ・緑化の推進 ・地域魅力の発信	○住民一人ひとりの意識改革(ポイ捨て禁止等) ○まち美化ボランティア活動のアピール ○まちの美化に関する活動の啓発・周知 ○コミュニティ回収の実施 ○駅前駐輪場対策委員会の強化—小委員会を設立し、具体的対応策の検討と実施 ○花植えによる緑化推進 ○落書きの除去(その都度) ○ペットの飼い主のマナー啓発	○学校と連携して美化・放置自転車に関する啓発ポスターを作成し掲示 ○阪急電鉄・駅前店舗に駐輪場の利用促進の呼びかけ、美化活動の協力を依頼 ○家庭ごみ収集方法の改善と出し方のマナーの徹底 ○日曜日のまちの一斉清掃の義務化(病気等事情のある人を除く)→回覧での呼びかけ ○交通安全のための環境整備	○空き家バンクと相談窓口の設置 ○駅前交差点をタバコ禁煙区域に指定してもらうよう環境局に相談 ○駅前に交番の設置 ○まちづくりのための地域住民の意識の醸成		
安全・安心に関すること	・災害時の連絡体制 ・災害への備え ・犯罪の防止	○日常から両隣とは、仲良くなっておく。(向う3軒両隣はとくに) ○災害時に「大丈夫です!」と一目でわかるようなシール、マグネット、旗の作成→活用しやすい方法で ○避難所でのコミュニケーションボードを活用(障がい者や子どものために) ○防災訓練の充実と継続(新東淀中学校・北陽高校と連携等) ○避難場所(新庄小学校・北陽高校)の周知徹底 ○自助力の向上(地震に対する備え) ○防犯カメラ・防犯灯の位置を把握し周知する ○小中学生の見守りボランティア活動の交代制と増員	○避難所に段ボールベッドの配置 ○小さい単位(町会)で訓練 ○水害時の高層マンションや施設の協力依頼 ○救急カプセルの普及 ○防災リーダーの増員(2人→3人)と若返り	○ヘルプカード(名前や血液型、特徴を記したもの)を作成し、常時携帯 ○避難所開設訓練に全員参加(訓練の参加により、避難所のイメージを事前に把握) ○備蓄倉庫を増やす ○避難場所の新規確保と周知		